

第 2 回兵庫県クラブチャンピオンシップ(U-14) 決勝戦評

久しぶりに決勝まで勝ち上がってきた神戸 FC と、ヴィッセル神戸を倒して勢いに乗るフレスカ神戸との対戦。実力のある 2 チームの対戦は緊張感ある戦いとなり白熱試合が展開された。

立ち上がりから丁寧の後方からビルドアップをする神戸 FC が試合を優位に進めていく。しかし、ゴール前までは運ぶがチャンスを作れないでいた中で神戸 FC が CK から 11 番がヘディングシュートを決め先制。

先制を許したフレスカ神戸だが、攻撃されるも堅い守備で簡単にシュートまで持ち込ませず、時折カウンターでチャンスを作っていた。また、徐々に神戸 FC のビルドアップに慣れ DF ラインの縦パスや不用意な横パスを狙い、ゴールに迫っていたが得点は奪えず。

このまま前半終了かと思われたが、フレスカ神戸がペナルティエリア角付近でファールを取られ直接フリーキックからゴールを奪われ前半終了。

後半は、神戸 FC がビルドアップ時に下がって受けようとする選手が多くなり、配置的にバランスが後ろに重くなったことで中々前進できない。その状況の中で、フレスカ神戸の守備が厳しくなり神戸 FC のミスが増えたことなどで、フレスカ神戸の攻撃が増え始め、再三チャンスを作り神戸 FC ゴールに襲いかかるも決定機を決めきれず 2-0 で試合終了。

神戸 FC にとっては天然芝でボールがあまり走らず、中々ゴールチャンスを作れなかったがセットプレーからの 2 得点が大きかった。

後半、攻撃で苦しみながらも失点しなかったことが優勝に大きく繋がった。